

Title	島嶼集落の空間構成に関する基礎的研究：バリにおける聖俗概念の環境的ヒルラルキについて
Author(s)	Ardi, Pardiman Parimin
Citation	大阪大学, 1986, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/35449
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名・(本籍)	アルダイ ARDI	バルダイマン PARDIMAN	バリミン PARIMIN
学位の種類	工	学	博 士
学位記番号	第	7480	号
学位授与の日付	昭和61年12月1日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当		
学位論文題目	島嶼集落の空間構成に関する基礎的研究：バリにおける聖俗概念の環境的ヒルラルキについて		
論文審査委員	(主査)	教授 上田 篤	
	(副査)	教授 紙野 桂人	教授 東 孝光

論文内容の要旨

本論文は、島嶼集落の空間構成について、バリ島における集落を事例として、聖俗の空間概念に基づく環境的ヒエラルキに着目して空間文化的な観点から明らかにしたものである。島嶼集落の生活空間は特殊な研究対象ではあるが、そこにみられる集落構成の原理から現代における住宅地の単一的な機能を超える空間構成手法のてがかりを得ることを目的としている。

本論文は4章からなっている。

第1章では、バリ島における伝統的な集落の環境と社会集団の構成およびその基底のある空間概念について、既往の研究成果をふまえつつ総括している。まず第1はバリ島の歴史的、地誌的、人類学的位置づけについて、第2はバリ人の世界観および聖一俗の空間意識についてそれぞれ述べ、さらにこれが集落構成に反映されている諸点について述べている。第3は集落内における伝統的な諸社会集団の構成について、第4は聖なる方位および集落内にみられるその指標について、第5は個々の住居敷地における空間構成およびその空間軸の特徴についてそれぞれ述べている。

第2章では、3つの集落を事例に、集落と住居敷地の空間構成およびその基本となる空間軸について分析している。次いで、15の集落をとりあげ、集落および住居敷地の基本となるふたつの基本的な方位軸の組み合わせによって集落の類型化を行ない、さらにその中に5つの集落を対象として、宗教的・社会的・経済的機能をもった施設を伝統的なもの、近代的なものに区分し、それら施設の立地特性の分析から、集落の空間構成の特質について述べている。さらに集落の空間構成にみられる近代化の影響について論じている。

第3章では、4つの集落を事例とし、集落内の種々の社会組織の特徴について述べ、さらにそれらが

集落の空間構成とどのような関係にあるかについて分析し、これらの比較を通じて集落生活における共同性の強さと集落形態との関係について論じている。次いで、15の集落を事例として、住居敷地の構成要素の中から集落生活の共同性を示す指標を設定し、これを用いて住居群の構成にみる共同性の序列について論述している。

第4章では、以上の考察をとりまとめたうえ、伝統的な島嶼集落にみられる集落生活の共同性の強さを考慮しつつ、近代的な都市計画手法で計画された住居地における共同性の欠如について述べ、将来の都市における住宅地のコミュニティの望ましい空間構成についての考え方を提示している。

論文の審査結果の要旨

本論文は、インドネシアのバリ島における伝統的集落を対象とし、空間の聖俗概念に基づく環境のヒエラルキに着目して、この環境ヒエラルキ概念と住居敷地の構成との関係、伝統的社会集団の構成と生活空間との関係、集落空間における近代化の影響などについて、住居集合における機能を越えた環境のデザイン概念の定立を目標として分析したもので、その主な成果は次の通りである。

- (1) 聖なる山と不浄の海とを結ぶ軸線上に、3つの世界、すなわち祖先神の住む聖なる山の領域、現世の人々の住む世俗的な集落の領域及び地獄的な海の領域が連続的に存在しているという空間意識をバリ島民がもっていることを事例調査等で示し、この軸線方向が伝統的集落においては半ば様式化し、島内における位置を問わず南北の方位軸と一致し、集落の生活空間の基本軸となっていることを明らかにしている。
- (2) バリの伝統的集落には、地域的・宗教的な社会組織を中心に、年齢集団、血縁集団、産業互助集団などが存在し、これらが交錯して個々の集落社会が構成されているが、集権的な社会組織をもつ集落では軸状の公共的空間と拡張に適さない住居敷地群構成をもつ傾向にあり、分化の進んだ社会組織をもつ集落では多様化した公共的空間と拡張に適する住居敷地群構成をもつ傾向にあることを明らかにしている。
- (3) バリ島の伝統的集落では、拡大家族住居の形態をとる集落と核家族住居の集落があるが、いずれの場合にも住居敷地には明確な聖俗のヒエラルキが存在し、そのヒエラルキに従って住居の各機能をもった空間が配置され、その中で祖先の祭祀空間が最も神聖な場所に位置づけられていることを明らかにしている。
- (4) 集落内における諸共用施設の分布、居住敷地内における建築物の改造実態などの調査分析を通じて、集落構成においても又住居空間構成においても、近代化が進行するなかで環境の聖俗のヒエラルキがなお維持されていることを明らかにしている。
- (5) 以上のまとめとして、伝統的な島嶼集落にみられる生活空間の共同性の構造を明らかにし、ひるがえって近代的な都市計画手法で計画された住宅地における共同性の欠如とその再生の方途について指摘し、新しい住居集団の環境デザインの基本的な考え方をまとめている。

わが国におけるこれまでの欧米の機能主義の考え方に基づく都市計画に対して、本論文の考察は、新しい住居集団における環境のデザイン概念の定立をはかるうえで極めて示唆的であり、環境計画学上寄与するところが大きい。よって、本論文は博士論文として価値あるものと認める。